

1982年 11月 3日

親愛なる老師様

栄道老師に関する手紙をありがとうございました。宗忠老師がこの事件を全くご存知無かったという事には私も本当に驚きました。今年の早くに宗淵老師が渡米なされた折、様々な重要事件が起きたにもかかわらず、彼の一番弟子に何も打ち明けなかったという事は、私の想像する所、宗淵老師は精神的に危機の状態にあったとしか思えません。

宗淵老師は、元栄道老師の弟子であったモーニングフリーグッドに嗣法を与えています。彼女は今ボストンで正式に老師として、独参、提唱等を行っています。私の弟子が、ミスフリーグッドの集会に参加し、帰って来て私に報告するまで、私はこの人物の名前すら聞いた事はありませんでした。これは、私の僧伽において、またこの国中の多くの僧伽において、考えなければならない問題だと思いました。宗淵老師の嗣法における真実性も真剣に考慮するべきで、正法寺内で起きた事件も、突然に現れた印可とやらも、一切、疑わしさ、曖昧性の現れでしょう。

ニューヨーク 禅スタディ ソサイエティのメンバーは余りに、栄道老師に投資しすぎているため、精神的に彼を除かねばならないと言う責任に顔を向ける事が、出来ない有様です。何か非常事態が生ずる迄、今の状態を引きずって運営が行われるのでしょう。最も強力な処置として行われた事は、委員会が彼を辞職させ、老師の代わりに老師によって選ばれた人物をその地位に付けるという事でした。1964年、彼と関係のあった女性が、銃を購入して彼を撃ち殺そうとしましたが、実行前に計画が発見され、事なきに終わりました。事件は進展し、毒は堆積して行きます。私は人騒がせな、と言われたくはないのですが、常識的に考えてみても、事態は深刻です。

これら一切が恐ろしい病気のように、過去の原因に戻ってそれらを変え、生き直すことなど出来ませんし、そんな事を言ってみても、18年前に成すべきであったと言ってみても無駄な事なのですが、そう思わずにはおれません。ハワイでもアメリカでも、私達僧伽の一同は貴方の心ある支持を必要としています。おそらく貴方は将来この事をお書きになるでしょう。それまで、私は私の内輪の関係者達に提唱を与え、禅の道義の修行を続けます。

この寒い季節、ご健康でお暮らし下さい。

合掌